

05 研究・調査事業

◆食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の課題（2025年度分）

食品安全委員会は、リスク評価の実施又は評価方法の指針等の策定に必要なデータ及び知見等を得ることを目的として、研究・調査事業を行っています。2025年度に新たに実施する研究・調査課題については、研究・調査企画会議事前・中間評価部会での審議を経て、食品安全委員会において決定しました。

研究課題

- 親化合物の毒性試験情報を活用した農薬代謝物のインシリコ毒性予測に関する研究
- ベイズ論的アプローチを用いたベンチマークドーズ法の適用に関する研究
- 魚類を用いたPFASの発生発達毒性評価法の確立と機序の解析
- 残留農薬の遺伝毒性試験結果の解釈および評価方法の構築に関する研究
- 有機フッ素化合物の生体内動態を加味したヒトへの毒性評価法の開発
- カンピロバクターに関する定量的データに基づくフードチェーンを通じたリスク評価
- 病原微生物のばく露評価に資する日本国内データベースの構築〔若手枠〕
- ミクログリアに着目した食品の次世代神経毒性評価システムの開発研究〔若手枠〕

2024年から食品健康影響評価を担う若手専門家の育成枠を開始しました！

調査課題

- アレルゲンを含む食品のファクトシート（くるみ）等の作成に向けた科学的知見の調査
- 農薬リスク評価に関する海外状況調査（令和7年度）
- 食品添加物のリスク評価に係る諸外国の状況調査
- リスク評価における新しい評価手法の現状と必要性に関するヒアリング等の調査
- ビスフェノールAに係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理



◆食品健康影響評価技術研究成果発表会（2023年度終了分）

2023年度に終了した研究課題について、その研究の成果の普及及び活用を促進することを目的として2025年2月26日に、成果発表会をオンラインで開催しました。

- 国内の鉛ばく露の実態と小児の神経発達への影響に関する研究（国立環境研究所 環境リスク・健康領域 主任研究員 岩井 美幸）
- アニサキス食中毒のリスク評価に関する調査研究（国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 部長 大西 貴弘）
- 化学物質による非遺伝毒性発がんの新規リスク予測・評価手法の開発（静岡県立大学 薬学部 教授 吉成 浩一）

06 国際協調

◆委員、専門委員又は事務局職員が、以下の国際会議等に参加し、各国の専門家・関係機関との意見・情報交換等を行いました。（2024年度）

- 4月 第5回国際食品機関長フォーラム（IHFAF）（シンガポール）
- 5月 米国内分泌学会（ENDO）2024（米国）
- 7月 国際食品保全学会年次学会（IAFP）2024（米国）
- 9月 EUROTOX2024（デンマーク）、
FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議（JMPR）（イタリア）、
レギュラトリーサイエンスに関する国際会議（GSRs）2024（米国）
- 11月 国際がん登録協議会年次学術集会（IACR）2024（中国）
- 3月 第64回米国毒性学会（SOT）（米国）
- その他 第17回コーデックス食品汚染物質部会CCCCF（4月）、第54回コーデックス食品添加物部会CCFA（4月）、
第39回OECD農薬作業部会（2月）



国際シンポジウム

内 容 日 時 2024年12月5日 (木) 10:00～13:00

場 所 食品安全委員会 会議室

講 演 — 10:10～10:25 —

講演 1 **「NAMsに関する国際動向」**

講演者 赤堀有美

一般財団法人化学物質評価研究機構 安全性評価技術研究所研究企画部研究企画課 課長
(食品安全委員会専門委員)

— 10:25～11:25 —

講演 2 **「Thyroid Disruption and Neurodevelopment in an Adverse Outcome Framework Translating NAMs - Filling in Gaps」**

講演者 Dr. Mary Gilbert

米国環境保護庁 (EPA) 上席研究員



概 要 米国 (EPA) より専門家を招待し、新たな評価技術 (NAMs) を活用した総合的評価 (IATA) の概念と海外での実践に関するシンポジウムを開催し、リスク評価に関する知見の充実を図りました。

英文電子ジャーナルの紹介

食品安全委員会は、食品のリスク評価に関する論文、食品安全委員会が取りまとめた評価書の内容等の海外への情報発信を行うため、英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」を科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE 上に開設し、PMC (PubMed Central) にも収載されています。2024年度は、vol.12 No.2 (2024年6月)、vol.12 No.3 (9月)、vol.12 No.4 (12月) 及びvol.13 No.1 (2025年3月) を発行し、国内外へ広く情報発信しました。

<2024年度にFood Safetyに掲載された主な論文等>

タイトル	著 者
Changes in the Phenotypes of <i>Salmonella</i> spp. in Japanese Broiler Flocks	Yoshika Momose, Yoshimasa Sasaki, Kenzo Yonemitsu, Makoto Kuroda, Tetsuya Ikeda, Masashi Uema, Yoko Furuya, Hajime Toyofuku, Shizunobu Igimi, Tetsuo Asai
Geographical Variation of Antimicrobial Resistance of <i>Salmonella</i> in Japanese Chicken	Yoshimasa Sasaki, Tetsuya Ikeda, Yoshika Momose, Kenzo Yonemitsu, Masashi Uema, Tetsuo Asai
Construction of a CYP2J2-Template System and Its Application for Ligand Metabolism Prediction	Yasushi Yamazoe, Norie Murayama

英文電子ジャーナル

食品安全委員会は、四半期毎に、英文電子ジャーナル「Food Safety」を発行しています。

食品安全に関する各種論文や、食品安全委員会が取りまとめた食品健康影響評価の内容等を掲載しています。



英文電子ジャーナル「Food Safety」

https://www.fsc.go.jp/food_Safety_official_journal.html



07 リスクコミュニケーション

食品安全委員会は、食品健康影響評価の結果や食品安全に関する基礎的な知識について、報道関係者、食品関係事業者、研究者、行政担当者、消費者等の様々な立場の方と意見・情報を交換しています。

食品添加物や食中毒などに加え、有機フッ素化合物（以下「PFAS」という。）や農薬の再評価など社会的関心の高いテーマについても、対面またはオンライン形式で積極的に意見交換・情報提供を実施しました。

◆意見交換会

【報道関係者向け】

食品安全委員会は、科学的知見に基づく食品の安全に関する情報が幅広く国民に届くよう、報道関係者の方々との意見交換を重視しています。

2024年度は、社会的関心を踏まえ、PFAS、農薬の再評価、アニサキスの3テーマを対象として、対面またはオンラインで開催しました。評価やリスクプロファイルの目的と意義、方法論やプロセスの透明性、評価の結果の意味、今後の課題なども含めて、活発に意見交換しました。

【消費者をはじめとする一般向け】

食品安全委員会は、広く国民に対して意見交換の機会を作ると、どなたでも参加できる一般向けの意見交換会にも力を入れています。

2024年度は、アニサキスをテーマとして、情報の拡散性・参加者の利便性を考慮するとともに、幅広く質問にお答えできるよう、オンラインで開催しました。全国から約300名の方々に参加していただきました。質疑応答では、事前に募集し寄せられた多数の質問に加えて、当日の質問も含め、多岐にわたる皆様からの声に回答しました。

開催実績

○PFOS、PFOAの食品健康影響評価書(案)

報道関係者向け：6月

○アニサキスのリスクプロファイル

報道関係者向け：1月

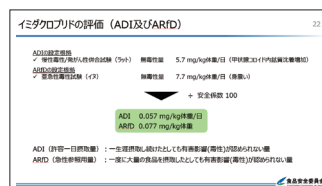
一般向け：2月

○PFOS、PFOAの水道水及びミネラルウォーター類の基準値設定に係る議論の概要

報道関係者向け：2月

○農薬の再評価(イミダクロプリド)

報道関係者向け：3月



対面及びオンラインでの報道関係者向け意見交換会の様子

◆講師派遣

食品安全に関して、地方公共団体と共催で意見交換会等を実施しています。また、地方公共団体、大学、消費者団体、関係職能団体、事業者団体等が主催する意見交換会やセミナー等に講師を派遣しています。

2024年度は、埼玉県、岩手県、沖縄県、京都府と共催して、給食施設職員、消費者、事業者、行政関係者、高校生または大学生等を対象に情報提供やグループワークを交えた研修を行いました。また、各団体の要望に応じて、「いわゆる健康食品」、「微生物・ウイルス(食中毒)」、「残留農薬」といったハザードごとのテーマに加え、食品安全委員会や食品健康影響評価の概要などの食品安全委員会の役割についても情報提供し意見交換しました。さらに、日本農薬学会や日本動物代替法学会に講師を派遣したほか、関連学会でブース展示を行いました。



グループワークの様子

関係省庁と連携した展示やミニ講座も

食品安全委員会は様々な省庁と連携し、食品安全に関するリスクコミュニケーションや情報発信にも取り組んでいます。

2024年度は、食品中の放射性物質等の食品安全に関し、消費者庁、厚生労働省、農林水産省及び経済産業省と連携し、「食品に関するリスクコミュニケーション『食品中の放射性物質～今と未来への歩み～』」と題して、全国5大学で大学生を対象とした意見交換会（開催大学：対面、サテライト参加大学：オンライン）と、東京都及び大阪府で一般消費者を対象とした意見交換会（対面及びオンライン）を開催しました。また、「親子で知ろう！学ぼう！考えよう！食べものの安全」と題して、宮城県、東京都、大阪府で開催されたイベントに出展し、主に小学生とその保護者を対象に、食品中の放射性物質をテーマとしたステージ企画、食品安全に関する基礎的な知識を取り入れた謎解きパネルの展示やミニ講座等を行いました。

開催実績

○大学生向け意見交換会

- ・純真学園大学（福岡県、9月）
- ・東日本国際大学（福島県、10月）
- ・立命館大学（滋賀県、10月）
- ・東京農業大学（東京都、10月）
- ・北陸大学（石川県、12月）

○一般消費者向け意見交換会

- ・東京会場（11月）
- ・大阪会場（11月）

○親子向け食品安全イベント

- ・みやぎ元気まつり2024（宮城県、8月）
- ・GOOD LIFEフェア2024（東京都、10月）
- ・みらいのたからばこ2024 in 大阪（大阪府、11月）



親子向け食品安全イベント
「専門家と吉本芸人の食品安全講座」



親子向け食品安全イベント
「行政担当者によるミニ講座」



親子向け食品安全イベント
「謎解き、塗り絵のワークショップ」



大学生向け意見交換会

08 食品安全委員会の 委員紹介

各分野の専門家である7名の委員から構成されています。

委員の紹介

委員長 やまもと **山本** しげき **茂貴**

専門分野 微生物学

経歴

東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻修士課程修了後、農学博士（東京大学）国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長、東海大学海洋学部教授を経て、2017年1月より食品安全委員会委員、2021年7月より食品安全委員会委員長



委員 あさの **浅野** さとし **哲**

専門分野 毒性学

経歴

富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士前期（修士）課程修了後、医学博士（横浜市立大学）帝人株式会社医薬開発研究所グループ統括、グラクソ・スミスクライン株式会社筑波研究所マネージャー、国際医療福祉大学薬学部教授を経て、2021年7月より食品安全委員会委員



委員 こじま **小島** ときこ **登貴子**

専門分野 食品の生産・流通
(生物有機化学)

経歴

埼玉大学工学部環境化学工学科卒業、埼玉県食品工業試験場穀類食品課、埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程修了後、学術博士、埼玉県産業技術総合センター北部研究所所長を経て、2024年7月より食品安全委員会委員（非常勤）



委員 そぶえ **祖父江** ともたか **友孝**

専門分野 公衆衛生学

経歴

大阪大学医学部卒業、ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院公衆衛生修士課程修了、医学博士（大阪大学）、国立がんセンター研究所がん情報研究部長、国立がん研究センターがん対策研究所副所長を経て、2024年7月より食品安全委員会委員



委員 すぎやま **杉山** くにこ **久仁子**

専門分野 消費者意識
消費行動（調理科学）

経歴

横浜国立大学教育学部卒業、横浜国立大学大学院教育学研究科家政教育修士課程修了、東京大学大学院農学系研究科博士課程修了後、農学博士、横浜国立大学教育学部教授（現職）、2024年7月より食品安全委員会委員（非常勤）



委員 とうきん **頭金** まさひろ **正博**

専門分野 化学物質

経歴

東北大学大学院薬学研究科博士前期課程修了後、理学博士（東京工業大学）、国立医薬品食品衛生研究所医薬安全科学部第二室長、名古屋市立大学大学院薬学研究科レギュラトリーサイエンス分野教授、名古屋市立大学学長補佐（研究力強化）を経て、2024年7月より食品安全委員会委員



委員 まつなが **松永** わき **和紀**

専門分野 リスクコミュニケーション

経歴

京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、株式会社毎日新聞社記者を経て、科学ジャーナリストとして活動。2021年7月より食品安全委員会委員（非常勤）



09 専門調査会及びワーキンググループ

委員会の下に16の専門調査会を設置し専門的な検討を進めています。また、特定の分野について集中的に審査を行う必要がある場合には、ワーキンググループ（WG）を設置します。

専門調査会

企画等専門調査会	農薬第三専門調査会	器具・容器包装専門調査会	かび毒・自然毒等専門調査会
添加物専門調査会	農薬第四専門調査会	汚染物質等専門調査会	遺伝子組換え食品等専門調査会
農薬第一専門調査会	農薬第五専門調査会	微生物・ウイルス専門調査会	新開発食品専門調査会
農薬第二専門調査会	動物用医薬品専門調査会	プリオン専門調査会	肥料・飼料等専門調査会

ワーキンググループ（WG）

栄養成分関連添加物WG	評価技術企画WG
薬剤耐性菌に関するWG	有機フッ素化合物（PFAS）WG
食事由来の化学物質のばく露評価WG	ビスフェノールA WG

専門調査会やワーキンググループに関する情報は
こちら▶



10 2024年度食品健康影響評価実績

食品健康影響評価とは、食品に含まれるハザード（危害要因）の摂取（ばく露）によるリスク（健康への悪影響が発生する確率と影響の程度）を、ハザードの特性等を考慮しつつ、付随する不確実性を踏まえて科学的に評価することです。食品安全委員会ではリスク管理機関（消費者庁、厚生労働省、農林水産省など）からの評価要請を受け食品健康影響評価を行ってきました。

2024年度に終了した食品健康影響評価の件数 計 **83** 件（2024年度までの累計 3330件）

● 添加物	3 件	● 農薬	31 件
● 動物用医薬品	6 件	● 器具・容器包装	2 件
● プリオン	3 件	● 遺伝子組換え食品等	17 件
● 肥料・飼料等	19 件	● その他（有機フッ素化合物（PFAS））	2 件

11 「食事由来の化学物質のばく露評価ワーキンググループ」を設置しました

食品安全委員会が実施する食品健康影響評価におけるばく露評価は、各専門調査会が定める指針に基づきそれぞれ実施されてきました。食事由来のばく露評価手法の国際的なガイダンスであるEHC240（第6章）が2020年に改訂されたことを受け、我が国においても最新のばく露評価手法を活用した評価手法を導入し、国際水準のばく露評価を行うことが求められています。

この課題は、特定の化学物質を対象とするものではなく、ばく露評価に資する最先端の手法を、実際の評価業務にどのように導入するかを検討するものです。そのため、分野を横断した総合的な議論が必要となります。

こうした背景を踏まえ、2025年3月に「食事由来の化学物質ばく露評価ワーキンググループ」を新たに設置しました。